

## 令和4年度編入学 生徒募集要項 別紙

令和4年度生徒募集「ギフテッド型入試枠」設置に寄せて

福井大学副学長 松木 健一

現代社会は、世界がグローバル化する中で産業構造や社会構造が大きく転換しつつある Society5.0 と言われる社会です。これに伴い教育の在り方も大きく変化します。子ども達にも多様性（ダイバーシティ）が求められ、変化に対応できる主体性（Agency）が必須となっています。

ところで、生徒の中には、優れた特性を秘めている一方で、苦手なところをもつ子ども達があります。これまでの日本の教育では、横並びの教育が重視されてきたため、苦手なところがある子どもは、その克服に多くの時間を費やし、その結果、優れた特性が磨かれなかったり、苦手克服の中で自己否定に陥ったりすることがありました。学校教育では得意なことが集団の学びの中で活かされていくインクルーシブ教育の実現が必要なわけです。そのためにはまず保護者と教師が子どもの特性を深く理解し、協力し合うことが最も重要です。

本校に入学希望される児童、保護者の皆さんの中には優れた特性を感じながらも、集団における係わりのがかりさや困難さを感じていらっしゃる方もおられるのではないのでしょうか。そこで、本校では入学選考に際して、「ギフテッド型入試枠」を設置しました。一般に「ギフテッド」とは、平均以上の能力、高い目的達成意識、高い創造性といった特徴をもつ者とされていますが、「ギフテッド型入試枠」では、特段、そういった子どもに限定しているわけではありません。本校が、全教科や領域で取り組んでいる協働探究学習やプロジェクト型学習は、子どものもつ得意分野での力を発揮することで、一人一人の良さを引き出し、学習集団の中で学び合う中で可能性を拓きながら成長を促していくことができると考えております。従って、この入試枠で入学した子どもを別枠（取り出し）で特別授業等を行うわけではありません。子どもたちが互いの多様性を認め合い、全ての子どもが、他者の力を引き出すことのできるコスモポリタンな資質・能力を身に付け、世界に羽ばたいて欲しいわけです。

一方で、得意分野があるがコミュニケーション等が苦手な子どもは、アイデンティティの形成時期と相まって自己認識や対人関係で悩みを抱えることも多いです。そこで、入学当初から保護者の皆様と緊密な連携を図りながら、自己有能感をもった子どもに育てていきたいのです。本校ではこれまで以上に、互いに関連しあい、それを反映した行動一人一人の成長・発達に応じた適切な配慮と支援、集団の育ち合いによってお子様の可能性を拓き、成長を支えていきたいと考えております。

なお、この「ギフテッド型入試枠」では、入学後も定期的にお子様や保護者面談等を実施し、保護者の皆様と一緒に子どもの成長を支えていきたいと考えております。ご不明な点があれば、お問い合わせいただき、入学選考の「ギフテッド型入試枠」をご検討ください。

※一般入試枠で入学後、学校生活を送る中でお子様や保護者の定期的な面談等の支援が必要になった場合には、ご相談の上ギフテッド型入試枠対象に移行させていただくことがありますことをご理解ください。

### 「ギフテッド型入試」枠について

1. 受験生本人について、特定の対象に強い関心や集中した探究心をもって学ぶ様子が見られ、さらに以下の項目に該当し、本人保護者共に本枠入試を希望する者。
  - ① これまでの学校生活において対人関係を構築するのが苦手で、本人あるいは保護者が困り感を抱えている。
  - ② 乳幼児検診や小学校生活の中で対人関係や関心の偏りなどで気がかりさの可能性を指摘されたり、専門機関への受診を勧められたりした。
  - ③ すでに発達に関する診断がある。

### 2. 入学後の相談について

附属学園では福井大学子どものこころの発達研究センター、福井大学教育学部、福井大学連合教職大学院と連携して相談活動を行っています。